



# 回復期リハビリテーション病棟協会 看護 5か条

2023年2月

## 1. 主体性を回復させよう

疾病や障害により、自分のことが自分でうまくできない状態では、主体性が損なわれる。このような状況では行動を起こしたり、目標に向かって頑張ることは難しい。患者が主体性を発揮できるように、日常生活を通してADLの自立や精神面・身体面を整え意思決定を支援する

## 2. 学習プロセスを支援しよう

患者の戸惑いや葛藤に共感し、患者が達成し得るようなレベルの課題設定を行い、さらに、患者の努力を褒め、励まし、承認を与え、行動の適・不適を患者の生活行動の各場面においてフィードバックする

## 3. 原疾患の治療に伴う合併症の予防・管理と慢性疾患のコントロールを支援しよう

原疾患が前提となり生ずる続発性の病態、病変、疾患を予防・管理し、既往症を含む慢性疾患のコントロールを支援する

## 4. 生活不活発病（廃用症候群）の改善と予防に取り組もう

生活不活動の改善には、体力とエネルギーが必要である。そのために活動前後の呼吸・循環の変化を観察して活動量が過大にならないように注意をするとともに、栄養と排泄、活動と休息のバランスを保ちながら患者の体力の回復と耐久性を高める必要がある。

## 5. 地域社会への移行を支援しよう

その人らしい地域社会への復帰に向けて、退院後の環境を整えると共に医療・看護・福祉サービスへの切れ目ない連携を支援すること